

銀座水族館(七つの海の魚および水産切手)



—32—

三崎出張所 神原 勇

ウナギ	
分類	ウナギ目 ウナギ科
学名	ニホン ウナギ <i>Anguilla japonica</i>
	ヨーロッパウナギ <i>Anguilla anguilla</i>
	アメリカ ウナギ <i>Anguilla rostrata</i>
英名	Eel

ウナギはいつ頃から庶民とかかわりあいがあったであらうか。最古典の「古事記」およびこれに次ぐ「日本書紀」にも見られないが「万葉集」には武奈伎・牟奈伎(ムナギ)という字でウナギが初めて表れる。

石麻呂にわれもの申す

夏やせによしといふものぞ

武奈伎とりめせ 一大伴家持一

このムナギの呼び名がしばらく続き、14世紀頃から現在のウナギに変わったが、いかなる理由によるかは文献にも残されていない。

全世界のウナギは亜種を含めて19種を数えるが、背鰭起部と肛門との間の長さが全長に対して占める割合により短鰭型と長鰭型とに分けられる。短鰭型は主にオーストラリア東部・ニューギニアからタヒチ島にかけて分布し、*Anguilla bicolor pacifica*, *A. bicolor bicolor*, *A. australis schmidti*, *A. australis australis*, *A. obscura* の5種がこれに属する。この他分類の基準となるものに背椎骨数即背骨がある。同種の魚類を卵の発生から種々の水温で初期の幼体まで餌育すると水温が高い程背椎骨数が少い事が実験によりわかっている。ウナギの背椎骨数は100~119で熱帯海域に分布するものはその数が少く、ニホンウナギは112~119で最も多い。同種でも変異が大きいため近縁な種類には上顎の歯列による分類が役立つ。

世界における分布はヨーロッパウナギが地中海、モロッコからアイスランド・スカンジナビヤ半島にかけて分布、アメリカウナギは南アメリカ北部・カリブ海・北アメリカ東海岸に分布し、南大西洋には全く生息してい

ない。太平洋熱帯海域のタヒチ島からニューギニア北部・セレベス海にかけて太平洋に産するウナギの70%も集中分布しているため、ウナギの祖先を考える上で重要な海域である。太平洋の南・北アメリカ西海岸には分布していない。印度洋はオーストラリア西海岸及南海岸・アラビア海西部に分布が見られないほか他の海域には8種が分布している。

ウナギの産卵場はデンマークのヨハネス・シュミット博士により、大西洋産ウナギはパーミューダ島南東のサルガッソー海域、印度洋産はスマトラ島西側のメンタワイ海溝で確認されている。西部印度洋ではマダガスカル島北部、南太平洋ではタヒチ島近海、北太平洋ではニューギニア北西部が産卵場と推定されている。日本産ウナギは松井魁博士により沖縄東方の南大東島から台湾南東部にいたるほぼ隋円形の海域が産卵場として考えられ、定説となっている。

全世界のウナギの産卵場に共通するものとして、海洋を垂直的にみたとき水温や塩分量などが急激に変化する第2躍層が300~500m付近の中層で見られるが、ここでウナギの産卵が行われるので第2躍層が表れるためにはより深い深度が必要となり海溝近くとなっている。水温は大西洋の400m層で15~16~17°Cと高温帯である。塩分量は35パーミル以上の高塩分海域である。ウナギの仔魚であるレプトケファラスは自力で泳げず海流の影響が大きいので、日本近海の黒潮・大西洋の湾流・北赤道海流・南赤道海流等の流域近くに産卵場が見られ、これらの海流の到達しない海域には全く分布が見られず、分布の不連続となっている所以である。

ウナギ

分類 : ウナギ目 ウナギ科

学名 : ニホンウナギ *Anguilla japonica*

ヨーロッパウナギ " *anguilla*

アメリカウナギ " *rostrata*

英名 Eel

ウナギハ所産ウナギ型ノ細長イ体デ、背鰭・尾鰭ナドノ垂直鰭ハ長クソノマ シリ鰭ニツナル。胸鰭ハ小ナリ 腹鰭ハ大。鰓孔ハ小ナリ。魚鱗ハ肉眼デ見エタリ程細小ナリ皮下ニ埋レタリ。皮膚ハ厚ク粘液ヲ被レタリ。呼吸ノ60%ヲ皮膚ヲ行ウトガ出スル。日本近海デハ日本カラ台湾ニカケテムク分布スルガ、日本海側ト本州北部ノ太平洋側ニハ少ナシ。日中ハ岩石ノ下トシテ潜ミ、夜行性ナル。小魚・貝・甲殻類昆虫等始トノ小動物ヲ捕食スル。日本南部ノ黒海ノ等ノ産卵場アリタル地方ノ和歌山県ノ徳島県ハオオウナギヌカクイ *Anguilla marmorata* ガ産スル



日本 -1966



ギルバート・エリス諸島 -1913



ジャージー -1913



チェコスロバキア -1966